

◆三和町を語り継ぐ会活動報告

平成 21 年から開催してきました歴史講座、第 1 回は「三和町ができるまで」、第 2 回は「住宅営団と三和町」そして第 3 回はよいよ最終回「終戦から蕨市誕生までの人々の暮らし」をテーマに、潮地ルミ先生にお話ししていただきました。

第 3 回 歴史講座

「終戦から蕨市誕生までの人々の暮らし」

平成 23 (2011) 年 2 月 19 日 (土) 13:30~15:00

南公民館 3F 集会室 参加者：30 名



昭和 20 年 8 月 15 日、疎開先の千葉で聞いたラジオからの昭和天皇の戦争集結宣言。当時の新聞の写しや市制 50 周年記念誌を手に、潮地先生自身の体験をまじえ、終戦直後から蕨市誕生までの人々のくらしの様子を生き生きとお話してくださいました。

三和町は住宅営団が造兵廠・被服廠などの軍需産業の従事者のための住宅地として開発した町、戦後職場を失った多くの人達や戦地から引き揚げてきた人達が就職難で大変苦勞しました。また、商売を始められた方も多く、その後三和銀座通りに発展しました。

生活難、特に食生活は「履物まで食べてしまった！（売って食料に替えた）」、井戸水の枯渴対策に早朝から水汲み競争になり、ポンプを動かす音が街中に響いたなどのエピソードがありました。また、配給制度特に米の配給は長く続きました。

さらに、住宅営団が戦争協力団体として昭和 21 年 12 月に解散させられたため、借家を全て払い下げることになったこと。一部は企業の社宅になったが、多くは、借家人組合の代表だった白井さんの御尽力もあり、昭和 27 年頃までに払い下げが完了しました。支払いに苦勞しながらも生活の根拠が確保されて、その後の生活再建を大いに助けました。

その後町会を中心とする住民の方達の尽力により、公民館の建設、上水道敷設、児童公園整備、桜並木整備、蕨一中・南小の開校、昭和 29 年には待望の西川口駅の開設等があり、生活環境が改善されていき、昭和 34 年 4 月 1 日に蕨市が誕生しました。

また、蕨第一中学校の郷土研究部による、蕨の人口調査や三和町住民の出身地調査などの研究結果（なんと 50 年以上前）が報告書の写しも併せて披露されました。

潮地先生 3 回にわたる歴史講座のお話本当にありがとうございました。

□空襲の爪あとが残る三和町、南側は一面の田圃



↑昭和23年8月

会場には荒井定男氏が大切に保存されていた、三和町会の回覧資料が掲出され、皆さん熱心に見入っていました。

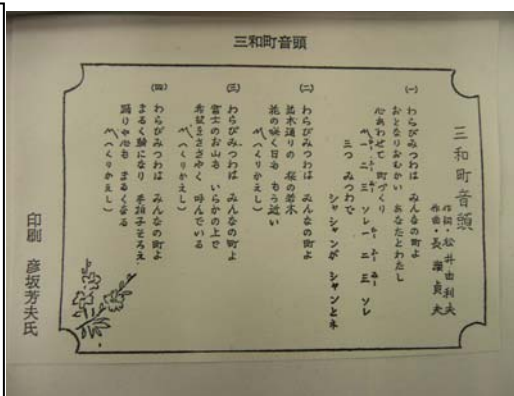
↓昭和28年の航空写真



まちの開発者、管理者が終戦で突然退場し、住民自らが計画の理念を引き継ぎ、公共施設の整備も含めたまちづくり、まちそだての主役として舞台に登場。行政に働きかけ、住民自らがコミュニティをつくりあげたことは、住民参加のまちづくりのさきがけとしても、語り継ぐべき経験であり、保存された貴重な資料とともに、活用されるべきものです。

情報お待ちしています

三和町時代に盆踊りで踊られていた、「三和町音頭」のロード・楽譜のありかを探しています。また、メロディーを記憶されている方いませんか？
ご存知の方、情報お待ちしています。
(歌詞⇒⇒⇒)



□三和稲荷の四季桜

